

ML
MODERNLIVING

ANNIVERSARY
75
th

ミラノ・
デザイン・ウィーク
2026

287 JULY 2026
モダンリビング 2026年7月号

CONTENTS

「共鳴する、キッチンとは」住宅実例5軒 — 五感に響くキッチン設備
日常を愉しむための豊かなキッチン — ミラノ・デザイン・ウィーク2026

KITCHEN
IN HARMONY

共鳴する、キッチンとは

SKY-FRAME

スイスのスカイフレーム社と共同開発した、超大型パノラマウィンドウ。最大有効開口は幅約13m、高さ約4m。上下のフレームがなく、かつてないほどの視界が広がる。従来の大開口は重く手動での開閉が困難だったが、電動で操作できる点が画期的。壁に窓を収納してフルオープンすることも。コーナータイプはオープン時にコーナーにフレームが残らず、内外がよりシームレスに。

BRAND STORY

NODEAとは?

開口部の最高体験を提供するために生まれたブランド。光や季節の移ろいなど自然の美しさを日常に取り込む日本ならではの美意識を礎とし、卓越した創造力、デザイン、技術力を通じて、圧倒的な開放感と洗練を提供している。現代の快適な暮らしに必要な、断熱や気密などの性能に加え、安全な操作性も高いレベルで実現している点が他に類を見ない。理性と感性が共鳴する至高の日常を提供する。

NODEA

ラグジュアリーな別荘建築を手掛ける名手が認める 自然と暮らしを理想的につなぐ窓

マスタープランから関わった北海道のニセコが世界的スキーリゾートになる前から、多くのラグジュアリーな別荘を手掛けてきた建築家のリカルド・トッサーニさん。日本発、NODEAの魅力について、国際的な視点で語っていただきました。

撮影：川口賢典 取材・文：平工京子

TOYAKO Toyako Project

季節の移ろいを満喫する非日常を大開口で体験



優れた断熱性能により、室内環境を快適に保ちながら連窓するガラスの大開口を介して、自然と一体化する美しい建築を実現している。「従来の大開口の問題は、方立などの構造材が非常に太くなってしまい眺望を遮ってパノラマ性を損ねることでした。NODEAの窓は確実に改善されています」(トッサーニさん)

洞爺湖を見下ろす丘陵地に、浮遊する橋を架けるように建てられた延床面積約1000㎡の邸宅。雪が落ちるよう、緩やかに傾斜した屋根の下、建物の前面と両サイドに床から天井まで続くガラス窓「WINDOW G」を採用。リビング、マスターベッドルーム、2つのゲストルームから180度の景観が広がる。羊蹄山を望むニセコとは異なり、湖を見下ろすので、パノラミックな窓が効果的。



Project in HOKKAIDO & OKINAWA

MIYAKOJIMA Sunctim Villa

沖縄の美しいパノラマの景色を絵画のように切り取る

三日月形のラグーンを見下ろす場所に立つブティックホテル。地形的な制約からくさび形をした建物は、海側に「SKY-FRAME」を採用し、遮るものがないオーシャンビューを堪能できる。繊細なアルミフレームが眺望を美しく切り取り、ベッドルームとリビングはテラスやプールとシームレスにつながる。特にリビングは窓を電動で開閉できるので、内外の一体感をより強められる。



居心地よいリビングから、プールの先に広がる海を見渡す贅沢な空間。内装はインテリアデザイナーの糸田敦子さんと共に手掛けている。NODEAの窓と、屋内の間仕切り「GLASS R」(画像左奥)は、素材や色の選択肢の幅が多いことも魅力。そこからプロジェクト全体のカラーテーマを組み立てることもできる。

建築家 リカルド・トッサーニさんにインタビュー

優れた窓が日本の建築美を表現する

伝統的な日本建築にみる「内外の一体化」を現代的に昇華させるNODEAの窓。
設計の可能性を広げるハイエンドな窓が、現代の建築にもたらす魅力とは？



GLASS R

日本古来の障子や襖に着想を得たスライディングドア。ガラスを通して光の変化や場の気配を取り込みながら空間を仕切る。2枚のガラスの間に和紙、布帛など挟むことで多彩な空間を創造。粉体塗装によるフレームカラーは空間の色調や、NODEAの窓のフレームと合わせることも。レーズルのラインのみが見える天面の収まりも美しい。

トッサーニさんによれば、欧州では歴史的に建築は内部機能のために空間を包む密れ物であり、窓は重視されていなかったそう。「日本建築は伝統的に縁側を介して内と外の関係をもっており、開口部によって豊かな内外の関係を築いてきました。欧州の建築家が、この「つながり」という発想と魅力に気づいたのは比較的最近のことです」とトッサーニさん。モダン建築においてそれを判の板ガラスなどの新技術でした。「こうしたテクノロジーの進化が空間構成

日本の伝統建築の美が
技術と共に世界に広がる



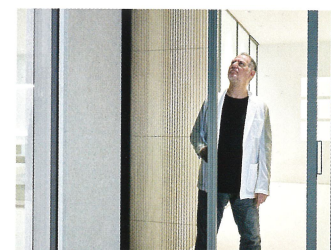
Profile Riccardo Tossani

リカルド・トッサーニ●建築家。1957年オーストラリア生まれ。イタリアにルーツをもつ。1988年ハーバード大学大学院都市計画建築デザイン修士課程修了。1997年リカルド・トッサーニ・アーキテクチャーを設立。国内外のホテル、リゾート、住宅、オフィス、インテリアデザイン、都市計画など、プロジェクトを多数手掛ける。

の可能性を広げ、新しい建築の方向性を生み出した。近年、開口部を中心に設計するようになったことは、建築史上、大きな転換点といえるでしょう。欧米が開閉部において技術的に先行するなか、NODEAはハイエンドな開口部の製品を提供する日本発のブランドとして誕生しました。「競合ブランドと比較してNODEAがもつ最もエレガントな開口部のソリューションを提供している」と、トッサーニさん。例えば、窓のハンドルが埋め込み式で目立たないことや、網戸が引き込んだ状態で完全に隠れることです。さらに、スライダーやレールがほとんど見えない仕組みなどを開発し続けています。「シミュレーションで見せるのは本当に難しいこと。その実現のために注ぎ込まれてきた努力と情熱に尊敬の念を覚えます」

世界基準の機能とデザインが 自然のなかで真価を発揮

別荘建築の名手としても知られるトッサーニさん。現在、北海道の洞爺湖と沖縄の宮古島で進行中の、2つのプロジェクトでNODEAの製品を採用しています。「北のリゾートでは、山やスカイラインなど眺望が上に向かうことが多い。そのため、窓には高さが必要になります。一方、南のリゾートでは海と水平線へと視線が向かう。そのために窓は幅の広さが重要になってきます」NODEAは「SKY-FRAME」や「WINDOW G」など、多彩な窓によって設計の意図に寄り添い、自然の豊かさを日々の暮らしのなかで気付かせてくれます。また、機能性も重要です。大開口において室内環境のコントロールは、立地条件にかかわらず普遍的な課題。世界基準の断熱性能を備えたNODEAの窓は、さまざまな自然環境のもとで真価を発揮します。羊蹄山を望むニセコでは、高さ6mの窓が理想。「NODEAの窓は、現在では及びませんが、きつと実現してくれるでしょう」と、トッサーニさん。建築家の意見を反映し、進化し続けるNODEAの窓。その役割は、日本の建築の優位性や魅力をさらに引き上げるために、ますます重要になるに違いありません。



WINDOW G

大きな開口部への連窓でパノラマの眺望を堪能できる。スライド部の最大幅は1.4m、フィックス部の最大幅は約3.5m。新技術によるオリジナルの断熱構造をもつ高品質のアルミフレームが、細さやハイサイズを実現している。「日本では害虫対策に必須な網戸も操作性が高く、躯体に非常に美しく収まっています」(トッサーニさん)



NODEA

NODEA GALLERY

神奈川県横浜市西区花咲町6-145
横浜花咲ビル1F
◎10:00～18:00(完全予約制)
<https://www.nodea.com/>



お問い合わせ
●NODEA <https://www.nodea.com/contact/>